

第4期中期目標・中期計画に係る自己点検・評価報告書の作成にあたって

このたび京都大学は、第4期中期目標・中期計画に係る取組状況を自ら点検・評価し、『第4期中期目標・中期計画に係る自己点検・評価報告書』としてとりまとめました。

この自己点検・評価は、国立大学法人法の改正に伴い、年度評価が廃止されたことを受け、本学独自の取組として実施するものです。

自らの責任で教育、研究、社会連携や組織運営等を不断に検証しつつ、更なる発展・向上を図り、その結果を積極的に情報発信していくことにより、社会に対する説明責任を果たすとともに、日頃本学の活動をご支援いただいている皆様に対して、本学の運営や今後の方向性をご理解いただくことを目的としております。

本報告書は、次年度以降も毎年度作成し、本学ホームページにて公表していきます。引き続き、温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

京都大学総長 湊 長博

評価担当理事所感

第4期中期目標・中期計画に係る自己点検・評価の実施にあたっては、各中期計画の担当理事の下、部局の取組状況も踏まえつつ、各計画の施策にかかる令和4年度1年間の取組状況について点検・評価し、大学評価委員会での検証を経てとりまとめました。点検・評価においては、中期計画の達成水準を示す評価指標の進捗状況や中期計画全体の実施状況を確認するとともに、どのような成果が出ているのか、次年度に向けてどのような課題があるか等、PDCAを意識しながら検証しております。

実施初年度ということもあり、PDCAを意識した新たな報告書の作成については少し難しい点もございましたが、各計画の取組状況は基本的に順調であり、結果として中期計画全44計画の全てにおいて、順調に進捗していることが確認できました。

各計画の進捗の中では、特に若手研究者を支援する取組、組織対組織における大型共同研究、産業界からの寄附金の受入れ等が好調である点が確認できました。一方、光熱費の高騰など昨今の社会情勢を受けた予算状況の逼迫により、一部計画では次年度以降の財源確保に向けた課題が抽出されており、今後、一層の努力が必要であることを確認しております。

新型コロナウイルス感染症による影響が落ち着き、国際的な人の流れが以前の状況を取り戻しつつある中、今後は留学生や外国人研究者の受入れ、日本人学生の海外派遣、国際共同研究等についてもより一層推進できるよう、この点検・評価を令和5年度以降の活動へのフォローアップとして活用して参ります。

評価担当理事 時任 宜博